

3 学期始業式

皆さんも知っているとおり、1日の夕方、石川県能登地方を中心に大きな地震が起きました。この中のほとんどの人が揺れを感じたのではないのでしょうか？もしかしたら能登地方に親戚やお友達がいる人もいるかもしれませんね、もしおられたら、その人は大丈夫だったのでしょうか？

校長先生の人生においても、今から約30年前の阪神淡路大震災・13年前の東日本大震災・6年前の大阪北部地震に続く揺れを感じた大きな地震となりました。地震後の輪島地方の火事では阪神淡路大震災の長田地区の火事を、あの横揺れは東日本大震災のそれを思い出させるものでした。日本は地震大国と呼ばれており、いつ発生するかわかりません。家族の中でもしもの場合に備え避難場所等についてよく話し合っておいてください。校長先生の家でも子どもが小さい間は大きい地震や台風でお家がつぶれたり、家族と会えなかったりした時にはこの場所に行くようにと避難場所を2つ決めていました。これを決めているだけでも少し安心したことをよく覚えています。

阪神淡路大震災をきっかけに「ボランティア」ということが大きく広まりました。救助や建物の復旧がなかなか進まないなか、みんなで助け合おうという気持ちが多くの人から沸き起こり、多くの人がボランティアとして地震のあったところへ駆けつけて、救助をしたり、がれきを取り除いたり、道路を整備したり、また、必要な食料や衣料を運んだりしました。それ以降、大きな災害があった時には、できる人ができることで助けるというボランティア活動が全国に広まっていきました。皆さんもTV等で見たことがあると思います。今回の地震でも現地に入り様々な活動に協力する人、義援金や救援物資を寄付する人など、多くの人ができることできっと被災した人を助けてくれるでしょう。

みなさんにも、協力できることがあると思います。例えば、今、大阪の消防隊員さんは石川県に救援に行ってくれています。そんな時に大阪で火事が多く起こればどうなるのでしょうか？安心して石川県の人々を救援に行けるのでしょうか？

大阪で火事が起こらないよう、普段よりもストーブなど火の始末に気を使うことが被災したことを少しでも助けることになります。誰かの役に立ちたい！という気持ちでできることを探してみましょう。